



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立山の手南学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

「朝読書」

毎朝、5分間の朝読書では、家から持ってきた本や教室に置いてある本、図書館から借りた本など、読みたい本を読んでいます。



「ペア読書」

異学年交流の一環として、上の学年の子が下の学年の子に読み聞かせをしました。



「どんな本なら楽しんでくれるかな。」とペアの子のことを想像しながら絵本を選んでいました。

「図書委員会によるイベント」

図書委員会では、本を借りた児童にたからくじやおみくじなどをやって楽しんでもらうという活動を行っていました。また、人気のない本にも興味をもち、いろいろな本を手にとってもらおうとビンゴを実施しました。休み時間に児童がわくわくしながら図書館に行くきっかけになっていました。

学習センターとしての機能

「寄託図書で並行読書しながら学習のゴールに向かう」

各学年で積極的に、寄託図書を活用しました。3年生の国語「すがたをかえる大豆」では、廊下に食物の秘密に関わる本や図鑑を用意し、自由に手に取れるようにしました。筆者が、読み手に分かりやすく伝えるためにしている工夫を授業で探しながら、平行して自分が紹介したい食物の秘密をたくさんの図鑑の中から探していました。

4年生の国語の伝統工芸リーフレットづくり際にも同様に学習を進めていました。

1年生の国語「じどう車くらべ」では、自分の図鑑をつくるという目標を掲げながら並行読書を行いました。

学習に関連した本を、子どもたちがあれこれ自由に手にしながら、興味や関心に合わせて選んで読み、情報を収集できるよさが寄託図書にはあります。



情報センターとしての機能

「季節や行事に合わせて」

キタラファーストコンサートに行く6年生のために、図書館の中に音楽やオーケストラに関わる絵本などが展示されていました。コンサートに行く前、図書ボランティアさんが、6年生に音楽を加えたオーケストラについての絵本の読み聞かせを行いました。このように、行事や季節に合わせて目立つコーナーから新鮮な情報を発信し、時期に合った絵本に触れてもらうことで、子どもたちの興味や関心を高め、読書意欲を引き出すことができました。



「クラス全員で図書館に」

低学年の学級は、週に1回程度、みんなで図書館に行き、本を借りに行きます。本を借りる経験を日常的に担任と共に行っていくことで、マナーや本の分類について学んだり、学校図書館の活用に意欲をもったりすることができます。